

「ミッドターム・スチューデント・フィードバック」による高校の授業評価

大塚恭平

Email: kyohei.1021@gmail.com

神戸国際大学附属高等学校

◎Key Words 関係性 学びあい 信頼関係

1. はじめに

ミッドターム・スチューデント・フィードバック（以下 MSF）とは、授業の中間期に授業実践者と異なる第三者が教室に入り、学生のニーズやより良い授業の実現に向けて建設的な意見を集め、即効性ある授業改善を目指す取り組みである。

筆者は、2013年度、高等学校（私立 男子校）の地歴・公民科の授業を展開するなかで、授業に対して生徒の意欲がなくなる、また生徒が求めているものがわからない、生徒との信頼関係を築くことができない、と言った問題に直面していた。それらの問題点を解消する手段の一つとして、MSFを使い授業改善をおこなった。

この発表は、授業評価の手法を紹介するものではない。教師と生徒が求めているもののミスマッチを解消し、お互いの信頼関係を築くことで、相互理解を促進し、生徒の授業に取り組む姿勢と筆者の生徒への関わり方を大きく変えた授業評価についての実践発表である。

2. MSFによる高校の授業評価

2.1 対象となった科目概要

科目 : 現代社会演習

授業目的 : これからの人生で必要なスキルを考える

到達目標 : 話す力、聞く力、書く力をつける

単位 : 3単位

クラス : 3年2組

コース : アスリート

2.2 授業評価の目的

1. 生徒がこれまでの授業を振り返り、学習に対する動機や今後の目標を明確にする。
2. 教員が、生徒の具体的な意見を汲み取ることで、即効性ある授業改善をおこなう。
3. 授業への肯定的な意見を生徒から汲み取ることで教員のモチベーションアップに繋げる。
4. 生徒からの意見や質問に対し教員がコメントすることで、相互理解を促進し信頼関係を築く。

2.3 授業評価実施日と出席者

実施日 : 2013年6月4日（火）

出席者 : 生徒（29名）

メインファシリテーター : 他学年・他コースの教員（1名）

テーブルファシリテーター : 養護教諭、学校付きチャプレン（牧師）、学校外部から3人（プロバレーボールチーム通訳、NPO 法人代表、少年サッカー指導者）（計5名）

2.4 メインファシリテーターとテーブルファシリテーターの役割

授業評価におけるファシリテーターの役割は、生徒の素直な意見を汲み取ることである。その為に、生徒とは利害関係のない第三者で実施する。

メインファシリテーターは、授業評価で出た意見は必ず授業実践者に伝えることを約束する。テーブルファシリテーターは、グループに入り生徒に質問を出し、グループで出た意見を文字に書き留める。

2.5 対象となった生徒たちの特徴

対象は、スポーツ推薦で入学したアスリートクラスである。部活動と授業の繋がりが持たずに、肉体的疲労も重なり学習意欲が低く、授業に取り組む意識が低く、常にスポーツのことしか考えていない生徒である。また、筆者の担当クラス中、一番学習意欲に欠け、筆者との関係性が上手くできていないクラスである。

2.6 質問と印象に残る回答

質問1 : 現代社会演習とはどんな授業が行われているか

- ・一方通行な授業
- ・一時間書きっぱなしの授業
- ・プリントを配布しひたすら書かせる
- ・メリハリのない授業
- ・授業が無くなってほしい

質問2 : それは何のためにやっているのか

- ・今の部活にはあまり関係ない

質問3：その内容は、生徒自身が必要性を感じているか（その理由）

- ・話すことに関しては感じている（携帯電話で済ませる時代に、人とコミュニケーションをとることは大事）が…しんどい

質問4：授業の中で、やる気が上がった言動や場面。

逆にやる気が下がった言動や場面

やる気が下がった言動や場面

- ・同じような授業 例)教科書をまとめる(日本史)
→これは最悪。原稿を書き続ける→ただ、早く終わらせるためにがんばりはする。
- ・マインドマップ→難しくて意味がわからなかったから
- ・先生の話の中でなんでもサッカーにたとえること
- ・サッカー大好きすぎ、自分大好きすぎ
- ・サッカーのイタリア研修の話がされた時、他の部としては苦痛。ジュニアユースの選手の話と外国人とほっぺにチューしか覚えてない
- ・サッカーに特化しすぎ
- ・自分たちで考える時間が多い→いっぱい考えることは面白くない、量が多すぎて印象に残るものが少ない、あれもこれも…はきつい
- ・存在をみた瞬間に「えー」と思う所がある
- ・面白くない一方的な所イジるのは必ずサッカー一部
- ・発言したかったのに無視
- ・書く量が多い
- ・サッカーの例え話が多すぎて他の部の子には伝わっていない
- ・毎回
- ・先生は、マジメ、ふざけない、ちょげない
- ・話のネタが偏っている

やる気が上がった場面

- ・みごとにない
- ・早く終わったとき

質問5：現代社会演習で今後どんなことがしたいか

- ・書くのはしんどい。直接話をして、皆の意見を聞きたい
- ・将来何なりしたいかを聞いたり話したりしたい
- ・書いてまとめるのがメインなので手法を変えてパソコンなど興味のわくものに変える
- ・教師と生徒が対等になれる時間
- ・各自でやるのではなく、グループでやる(いろいろなアイデアがでる)
- ・1時間あれもこれもやるのではなく、たまには1時間に1つをやり遂げる授業

3. MSF の結果

この授業評価をおこなった後、今までの授業を続けることはできなかった。回答を読み終えると2日間眠ることができず、3日後におこなわれる次の授業で教室に入るのも怖くなった。しかし、教室に入ると、生徒たちのほうからコミュニケーションをとろうとする変化が見られ、筆者との関係性を改善し

ようとする姿勢が見られた。それは、筆者が担当してから2年間で、初めて生徒とコミュニケーションと関係性がとれた瞬間であった。

私は、教室の机をすべて下げるよう指示し、円になるように椅子をならべ、まるで円陣をくむような形で授業を開始した。まず、生徒の意見に対して、反省すべきことは素直に謝り、変えられること、実現・改善できることをコメントした。また、変えられないことや今後の取り組みでわからないことを質問した。それは、結果として相互理解を促進し、生徒との確固とした信頼関係を築くことにつながった。

そこから私の授業は大きく変わった。「教える先生」から一人間として生徒の「授業協力者」へとシフトチェンジしたのだ。自分が考える伝えたいことを伝えるのではなく、生徒がこれからの人生に必要なこと、今後、授業で取り組みたいことから授業をスタートさせ、生徒をサポート、支援するように努めるようになった。生徒への関わり方も変わった。一方的に、教える、伝える、評価すると言った「縦(先生)」の関係から、共に考え、学び合う、損得のない「横(協力者)」の関係へと変化していった。

また、生徒の取り組む姿勢ややる気も大きく変化した。授業評価で生徒たちが望んだ授業内容が実現したことで、生徒の側には自分の言葉に対する責任が芽生え、前向きに授業に取り組む姿勢が見られるようになった。また、生徒との関係性改善が軸となり、教師と共に授業を作り上げる学びあいの場が教室に生まれた。

4. まとめ

学習意欲に欠ける生徒の大部分は、感情的に学習が嫌いである。この授業評価では、生徒の素直でストレートな意見が引き出されている。私はこれを読んだ時、生徒の感情的な態度や意見に直接向かい合っただけでなかった自分に気がついた。また、生徒は自分の感情を意見として表明したことによって、教師がそれをどのように受け止めるかを相手の立場に立ち考える機会になった。今回の授業評価は、教師と生徒がお互いの信頼関係を築くとともによい契機となり、その後、授業内容も生徒の授業に取り組む姿勢も劇的に変化した。

このようにMSFを実施した成果は、大変大きい。しかし、これを学校全体の授業評価の仕組みに取り入れていくためには、いくつかの課題がある。まず、MSFで出た生徒の意見を受け止めるための心の準備や教師の精神的な忍耐力が必要である。次に、生徒は自分の意見に対しての責任を自覚する必要がある。ただのわがままな意見にならないようにしなければならない。また、生徒からの感情的な意見にたいして、授業改善に対する建設的な意見をより多く引き出す工夫が必要である。最後に、MSFをおこなうための第三者を継続的に確保することは、さまざまな障害と困難を伴う問題である。